

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年3月10日第16号(通巻22号)
オリーブの会
大阪府豊能郡能勢町平通101-453
tel/fax:072-737-9454
mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
facebook: oribunokai

速報: FB 管理者が再び2月28日の人民戦線の翻訳記事を理由に、オリーブの会の FB 記事に制限を加えた。当面ページを更新できなくなりました。その間ではなブログの oribunokai で続きます



イスラエルはアパルトヘイト国家である。

2月1日国際アムネスティは、270ページに及ぶ「イスラエルのパレスチナ人に対するアパルトヘイト」という報告書を発表した。

イスラエルと米国は、この報告書を「反セム主義」であると即座に否定した。また、ドイツも否定した。しかし、この報告書のどこが「反セム主義」なのか。反シオニズムであっても、反セム主義、反ユダヤ主義ではない。

アパルトヘイトとは、英語の「分離」(apartness)にあたるアフリカーンス語(南アフリカ共和国の公用語)。かつての南アフリカ連邦、およびこれを継承した南アフリカ共和国における白人と非白人(黒人、インド、パキスタン、マレーシアなどからのアジア系住民や、カラードとよばれる混血住民)の諸関係を差別的に規定する人種隔離政策であったが、1994年白人国家体制の崩壊とともに法律上は廃止された。

「イスラエルは、すべての市民の国家ではなく、(むしろ)ユダヤ国民のみの国民国家である」。2019年のネタニヤフ首相(当時)の言葉

アムネスティは、国際法でのアパルトヘイトの規定の枠内で、パレスチナ人に対する機構的、体系的なイスラエルの差別を記録し、分析を行った。(12ページ)

そして、アムネスティは、イスラエルが、パレスチナ人の権利の行使を管理できるところではどこでも、抑圧と支配のシステムを課していることを示した。

アムネスティは、イスラエルがアパルトヘイトという国際的な過ちを犯していること、この制度を押し付けるところはどこでも人権侵害であり、国際公法違反であるとして結論づけた。

その中身をみてみよう。

国際法におけるアパルトヘイト

アパルトヘイトは、国際公法に違反し、国際的に保護される人権に対する重大な侵害である。国際刑事法上の「人道に対する罪」である。主に3つの国際条約で禁止されている

アパルトヘイトを明示的に犯罪化したのは、「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約」(以下、「国

際条約」)です。

差別撤廃条約(ICERD)、アパルトヘイト犯罪の抑止及び処罰に関する国際条約(The international Convention on the Suppression and Punishment of the Crime of Apartheid)(アパルトヘイト条約)、国際刑事裁判所ローマ規程(Rome Statute of the International Criminal Court)です。

パレスチナ人を抑圧し支配する意図

1948年の設立以来、イスラエルは、以下のような明確な政策を追求してきた。

ユダヤ人の人口覇権と土地の支配を最大化し、ユダヤ人イスラエル人の利益を図る一方パレスチナ人の数を最小限に抑え、彼らの権利を制限し、彼らの挑戦する能力を妨害している。

この収奪をイスラエルは、1967年、グリーンラインを越えて、ヨルダン川西岸とガザに拡大した。

それ以来、占領を続けている。今日、イスラエルが支配するすべての領土は、以下のように管理され続けています。

ユダヤ人であるイスラエル人が利益を得て、パレスチナ人が不利益を被るようにし、パレスチナ難民は排除され続けている。

領土の分断と法的隔離

1948年、ユダヤ人国家としてイスラエルを建国する過程で、その指導者たちは大量の数十万人のパレスチナ人を追放し、数百のパレスチナ人村を破壊した。これは、民族浄化に相当するものである。彼らは、パレスチナ人をイスラエル国内の飛び地に強制収容することを選択した。

1967年の軍事占領後、ヨルダン川西岸地区とガザ地区を含むことになった。彼らはパレスチナ人の土地と天然資源の大部分を収奪し、法律、政策、慣行を導入している。パレスチナ人を組織的かつ残酷に差別し、地理的・地理的に分断したままにしている。

パレスチナ人は、政治的に、常に恐怖と不安の中にあり、しばしば貧困に喘いでいる。

一方、イスラエルの指導者たちは、法律上も実際上も、ユダヤ人市民を組織的に優遇することを選択し、次のようなことを行ってきた。

土地と資源の分配は、彼らの相対的な富と幸福をもたらし、その結果、パレスチナ人を犠牲にすることになった。

法的隔離と管理

イスラエルが占領下において軍事命令によって占領下パレスチナ領土を支配していることが、占領下パレスチナ領土の軍事体制を、イスラエル内と併合された東エルサレムの市民体制とは別物であるという誤った認識を生んでいる。

この見解は、イスラエルによる抑圧的な軍事システムの多くの要素が、イスラエルが18年間にわたり48年領内のパレスチナ人を軍事的に支配してきたことに由来する軍事システムであるという事実を無視するものである。

イスラエルにおけるパレスチナ人の収奪は、今日も続いている。

支配と収奪のための軍事的支配の使用

イスラエルは長年にわたり、軍事支配を重要な手段として、その抑圧体制を確立し、グリーンラインの両側でパレスチナ人を支配し、1948年以来ほぼ継続的に、1967年の7ヶ月の空白を除いて、イスラエルとパレスチナ自治区のパレスチナ人の異なるグループに対して適用し、戦略的に重要な地域へのユダヤ人の入植を進め、治安維持を口実にパレスチナ人の土地と財産を奪っている。

パレスチナ自治政府の設立にもかかわらず、1,800以上のイスラエル軍の命令が、ヨルダン川西岸に住むパレスチナ人の生活、地位、移動、政治活動、拘留・起訴、天然資源へのアクセスなど、あらゆる側面を支配・制限し続けています。

国籍・居住・家族生活の否定

イスラエルは、パレスチナ人の国籍と地位の否定を確実にし、家族の統一と祖国と故郷への帰還の権利を侵害し、法的地位に基づく移動の自由を厳しく制限するさまざまな法的制度を通じて、分断と分離のシステムを維持している。これらはすべて、パレスチナ人を支配し、イスラエルとパレスチナ自治区全域の主要地域でユダヤ系イスラエル人の多数を維持することを目的としている。48年領内のパレスチナ人は市民権を与えられている一方で、パレスチナ人は国籍を否定され、ユダヤ系イスラエル人との法的区別を確立している。また、兵役免除との関連で、一定の恩恵も受けられない。

一方、東エルサレム在住のパレスチナ人は、イスラエル国民ではない。その代わりに、東エルサレムでの居住と就労を可能にする脆弱な永住権が与えられ、イスラエル国民保険協会と国民健康保険による社会的恩恵を享受することができる。

家族生活の破壊

占領下パレスチナ領土内部で家族を引き離す措置に加え、イスラエルはグリーンラインを越えたパレスチナ人の家族生活を崩壊させる差別的な法律や政策を制定しており、それがどのような例であるかを明確に示している。

イスラエルは、一つの支配システムによってパレスチナ人を断片化し、隔離している。アムネ스티ー・インターナショナルが記録してきた他の施策と同様に、それらは主に、安全保障というよりも人口動態を考慮したものであり、ユダヤ人の多数を維持するためにグリーンライン内のパレスチナ人の存在を最小化することを目的としている。

移動制限

イスラエル当局は1990年代半ばから、パレスチナ自治区内およびパレスチナ自治区とイスラエルの間に閉鎖システムを導入し、東エルサレムを含むヨルダン川西岸とガザ地区に住む数百万のパレスチナ人に、法的地位に基づくこれまで以上に厳しい移動制限を徐々に科してきた。これらの制限は、イスラエルがパレスチナ人を別の飛び地に隔離し、孤立させるもう一つの手段である。そして、最終的には自国の支配を強化する。

イスラエルはヨルダン川西岸地区のすべての出入国ポイントを管理し、ヨルダン川西岸地区と海外との間のすべての移動を管理している。イスラエルはまた、ガザ地区からイスラエルへの旅客用国境であるエレッツ国境を通じて、占領下パレスチナ領土の他の地域とイスラエルへの人の出入りをすべて統制している。(エジプト当局も、ガザとエジプトを結ぶラファ (Rafah) 交差点に対するエジプト側の厳しい制限を維持している)。イスラエルに永住権を持つ東エルサレム人を除き、占領下パレスチナ領土のパレスチナ人は、上級ビジネスマンや例外的な人道的ケースにのみ発行される特別許可証を取得しない限り、イスラエルの空港を経由して海外に渡航することができない。

政治参加の権利の制限

イスラエルの法律や政策は国家を民主的と定義しているが、パレスチナ人の分断により、イスラエル版民主主義は圧倒的にユダヤ系イスラエル人の政治参加を優遇している。さらに、主にクネセツのような意思決定プロセスにおけるパレスチナ人の代表は、イスラエルの法律や政策の数々によって制限され、損なわれてきた。

最も重要なことは、イスラエルの憲法が、イスラエルをユダヤ人国家と定義し、事実上そのようなアイデンティティを確立するいかなる法律に対しても、イスラエル国民が異議を唱えることを妨げていることである。イスラエルのパレスチナ市民は投票権を持ち、国政選挙に立候補することができるが、実際には政治参加の権利は制限されており、彼らは「内からの敵」と認識され続けている。

1958年に制定されたイスラエルの基本法の「クネセツ」では、中央選挙管理委員会は、政党や候補者の目的や行動が、ユダヤ人国家・民主国家としてのイスラエルの定義を否定するもの、人種差別を扇動するもの、敵対国家やテロ組織によるイスラエルに対する武力闘争を支持するものである場合、選挙への参加を認めないことができるとしている。さらに、その目的や行動がイスラエルを否定するものである場合、その政党の登録はできない。

1992年の政党法では、直接的にも間接的にも「ユダヤ人国家であり民主主義国家であるイスラエルの存在」を否定する政党の登録は禁止されている。

長年にわたり、最高裁は中央選挙管理委員会によるこの規定に違反するパレスチナ人政党の禁止やパレスチナ人候補者の失格をおおむね覆してきた。これは、クネセツの大多数の議員にとって受け入れがたい見解を表明した公的な発言を根拠としている。しかし、これらの規定は、パレスチナ人議員が、パレスチナ人少数派に対するユダヤ系イスラエル人の支配を成文化する法律に異議を唱えることを妨げ、表現の自由を不当に制限し、その結果、有権者の懸念を効果的に代弁する能力を阻害しているのである。

土地と財産の収奪

1948年当時、委任統治領パレスチナの土地は、ユダヤ人の個人・団体が約6.5%、パレスチナ人が約90%の個人所有地を保有していた。しかし、わずか70年余りの間に状況は逆転してしまった。

イスラエルは、その建国以来、大規模かつ残酷な土地接収を強行し、パレスチナ人から土地と家を奪って排除してきた。イスラエルと占領下パレスチナ領土のパレスチナ人は、異なる法的・行政的体制下にあるが、イスラエルは、ユダヤ人による土地支配を最大化する一方で、パレスチナ人を人口密度の高い別の飛び地に居住させ、彼らの存在を最小限に抑えようとするユダヤ人化政策のもと、すべての領土領域で同様の土地収用策をとってきたのである。この政策は、イスラエルにおいて1948

年以来、ガリラヤやネゲブ(ナカブ)など、パレスチナ人が多く住む戦略的に重要な地域で継続的に追求され、1967年のイスラエルによる軍事占領後は占領下パレスチナ領土に拡大された。今日、ネゲブ(ナカブ)、東エルサレム、ヨルダン川西岸地区Cにおいて、イスラエルによるパレスチナ人の強制移住の取り組みが続いている。

差別的な計画や建築体制は、パレスチナ人の「新たな収奪のフロンティア」であり、ユダヤ人化と領土支配の戦略の表れである。

差別的な区画整理と計画政策

土地の所有権と割り当てのシステムと同時に、ゾーニングとプランニングの政策は、イスラエルと占領下パレスチナ領土の両方で、パレスチナ人のコミュニティを疎外しながらユダヤ人の支配を確立するというイスラエルの政策を実現する上で中心的な役割を担ってきた。計画は、戦略的な場所でのユダヤ人イスラエルの存在を拡大し、ユダヤ人の町、都市、入植地を建設し、パレスチナ人の町や中心地の地理的拡大を妨害し、土地利用や開発のためのパレスチナ人のアクセスを、緑地、工業地帯として区画することで規制するために使われてきた。

軍事用地 このような計画は、例えば、パレスチナの地方を囲い込み、1948年以降に取り壊されたパレスチナの村を軍事地帯や国立公園に指定することで抹殺するために使われた。

パレスチナ人の人間形成の抑圧

数十年にわたるイスラエルの支配下におけるパレスチナ人の意図的な不平等な扱いは、パレスチナ人を疎外し、自然・金融資源、生活機会、医療、教育への公平なアクセスを禁じ、広範囲かつ組織的な社会経済的不利益の対象としている。イスラエル当局による、ユダヤ人の利益のための差別的な扱いと資源の配分が行われている。

イスラエル国内のイスラエル市民と占領下パレスチナ領土のイスラエル人入植者は、現場での不平等をさらに悪化させている。

イスラエルとパレスチナ自治区全域で、何百万人ものパレスチナ人が人口密集地に住んでいるが、一般的に低開発で、ゴミ収集、電気、公共交通、水と衛生のインフラなどの適切な基本サービスが欠如している。ネゲブ(ナカブ)、東エルサレム、ヨルダン川西岸地区Cなど、イスラエルの完全支配下にある地域では、基本サービスの拒否は本質的に差別的な計画や区画政策と結びついており、耐え難い生活条件を作り出して、ユダヤ人入植地の拡大を可能にするためにパレスチナ人に家を離れ

させることを意図しているのである。さらに、ヨルダン川西岸とガザ地区全体におけるイスラエルの排除、隔離、厳しい移動制限の政策は、イスラエルが国際法の下で自国民だけでなく軍事占領下で暮らすパレスチナ人にもそうしたサービスを提供する責任を負っているにもかかわらず、パレスチナ人が救命治療を含む医療や教育を受けることが困難な状況にあることを意味する。そのようなサービスを受けることができて、一般的にユダヤ系イスラエル人に提供されるサービスより劣っている。このような政策は、パレスチナ人の社会経済的権利に深刻な影響を与え、彼らが人間としての可能性を発揮するのを阻んでいる。

アパルトヘイトのシステム

イスラエルは、パレスチナ人に対する組織的な抑圧と支配の体制を作り上げ、維持してきた。それは、差別的な法律、政策、慣行を強化することによってイスラエルと占領下パレスチナ領土全域で施行され、全体として見れば、パレスチナ人の生活のほぼすべての側面を支配し、日常的に彼らの人権を侵害しているのである。このアパルトヘイトのシステムは、歴代のイスラエル政府によって、その時の政権政党に関係なく、支配してきたすべての領域で数十年にわたって構築・維持されてきた。イスラエルは、1948年と1967年に獲得した領土に対応し、異なる時期に異なるグループのパレスチナ人を差別的で排除的な法律、政策、慣行の対象にしてきた。

それは、東エルサレムを併合し、残りのヨルダン川西岸とガザ地区を占領したときである。数十年にわたり、イスラエルの人口統計学的、地政学的な考慮が、それぞれの領土におけるパレスチナ人に対する政策を形成してきた。

人道に対する罪

イスラエルとそのために行動する個人は、パレスチナ人に対する支配と抑圧のシステムを確立し維持する過程において、アパルトヘイト条約とローマ規程がそれぞれ規定する非人道的・非人道的行為を体系的に行ってきた。アムネスティ・インターナショナルは、イスラエルと占領下パレスチナ領土において、上記の差別的な法律、政策、慣行のシステムと関連し、それを強制されるパレスチナ人に対して行われた強制移送、行政拘留、拷問、不法殺害、重傷などの非人道的あるいは非人道的行為、基本的自由の否定あるいは迫害について具体的に調査してきた。アムネスティは、イスラエル国内およびパレスチナ自治区でイスラエルが行っている禁止行為のパターン

は、パレスチナ住民に向けられた組織的かつ広範囲な攻撃の一部を形成しており、この攻撃の文脈で行われた非人道的または非人道的行為は、このシステムを維持する意図で行われ、アパルトヘイト条約およびローマ規程の両方の下でアパルトヘイトという人道に対する犯罪に相当するとの結論に達した。

安全保障への配慮と抑圧・支配の意図

イスラエルは国際法の下で、その管轄と支配下にあるすべての人を暴力から保護する義務を負っている。国際的な武力紛争と軍事占領の状況下では、以下のようなことがあり得る。

異なる集団に対して異なる扱いをすることが、差別的禁止を侵害することなく合法的な根拠に基づいている状況。正当な安全保障上の懸念により、差別的な取り扱いが許される場合がある。

結論と提言

アムネスティ・インターナショナルが記述した法律、

政策、慣行の体制の全体は、イスラエルが、ユダヤ系イスラエル人の利益のためにパレスチナ人を抑圧し支配する制度的体制、すなわちアパルトヘイト体制を、それが行使されてきたあらゆる場所で確立し維持してきたことを示している。

1948年以來、パレスチナ人の生活を支配してきた。アムネスティ・インターナショナルは、イスラエル国家がパレスチナ人を劣った非ユダヤ人種集団とみなし、扱っていると結論付けている。この隔離は、法律、政策、慣行を通じて体系的かつ高度に制度化された方法で行われており、これらはすべて、パレスチナ人がイスラエルの領域内でユダヤ系イスラエル人と同等の権利を主張し、享受することを妨げることを意図し、占領下パレスチナ領土内で、パレスチナ人を抑圧し支配することを意図している。これは、イスラエルと占領下パレスチナ領土の外に居住するパレスチナ難民の故郷に戻る権利を（否定することによって）統制する法体制によって補完されてきた。



第31回パレスチナ中央評議会の開催をめぐって

2月6日にラマラで中央評議会が招集された、ハマスとイスラム聖戦、人民戦線、総司令部派、シリアパース党系のサイカがボイコットをした。ボイコットは、旧来の党派だけではなく、ハナン・アシュラウイなどの独立系の人々も、分裂に油を注ぐだけであるとして、ボイコットした。しかし、民主戦線、人民党は参加した

それは、今回の中央評議会が、さらなるアッバースの権力を固めるものになることが明確であったからである。アッバースは4年の任期の大統領になっていらい7年間選挙を行わず、自分の権力を固めてきた。多

くのパレスチナ人は、アッバースが辞任をすることを求めている。

昨年は、総選挙、大統領選挙を行うといいながら、自らの勝利が不利とわかると、イスラエルがエルサレムでの選挙を承認しないことを口実に中止を行った。また、イスラエルとの共同を、この中央評議会の直前に、イスラエル国防相ガantzの自宅行っており、そこに立ち会ったのがハッサン・アルーシェイクである。

また、中央評議会は、本来パレスチナ民族評議会（PNC）に変わって人事などを決定できるものではないにもかかわらず、PLOの執行委員会の人事を決めたり、PNCの議長を決めたりしている。PNCの選挙を行わず、本

オリープの会通信 第16号(通巻22号)

来権限のない人事までを中央評議会で決めるというのは、だれの目からみても、アッバースの権力固めでしかない。

中央評議会は、パレスチナ民族評議会の中央組織であり、パレスチナ中央評議会（パレスチナちゅうおうひょうぎかい、Palestinian Central Council (PCC) はPLO 中央評議会 (PLO Central Council) としても知られ、パレスチナ解放機構 (PLO) の組織の一つである。PCC はパレスチナ民族評議会 (PNC) が閉会中に政策決定を行う。PCC は PNC とパレスチナ解放機構執行委員会の連携を行う。PCC は PNC により選出され、PNC 議長が議長を務める [1]。PCC は現在 PLO 執行委員会や PNC、PLC などのパレスチナ組織からの委員 124 名で構成されている [2]。

パレスチナ民族統一がうたわれていながら、ファタハ中心とする自治政府側が中心になってしまった。本来であれば、PNC 議員が選挙され、PNC によって決定されなければならないものである。人民戦線などは、統一を実現するものではないと批判している。前回の決定などが履行されていない。

第31回中央評議会の決議では、イスラエルの承認の取り消しや、共同の停止がうたわれているが、これまでも、自治政府は履行してこなかった。また、アッバースの後継者と思われる人物に、イスラエルに覚えがよいハッサン・アルシェイクが PLO 事務局長アラカトの後継者になったこと。これで、マルワン・バルグティなどが後継者なる地位からおとされたといわれ、イスラエルとの関係をすすめることを示している。

自治政府の大統領アッバースが、中央評議会に先立って、ガンツとエルサレムのガンツの家で会談したこと、また、アッバースの後継者と目されている、ファタハで大臣のハッサン・アルシェイクが、ラピドイスラエル外相と会談するなど、パレスチナの民族的な統一よりも、イスラエルとの治安調整を優先したこと。おのずと、この中央評議会の性格が明確になる。

中央評議会の決議は、イスラエルとの共同の停止がうたわれている。また、パレスチナ国家を認めない限り、イスラエルを承認しないなどのことば並べられている。これらは、何度も決められ、その都度アッバースたちによって破られてきた。すでに述べたように、中央評議会の前に、ガンツとアッバースは会談しており、だれも額面通りに受け止めることはできないのは、明らかである。

さらに、アッバースの後継者と目されるのが、サエブ・アラカトの後任となった民政大臣ハッサン・アルシェイクである。かれがファタハのほかの候補者を押しのけて、アッバースの後継とされている。

そして、民族統一をうたっているが、分裂の根拠となっているものをそのままに、口だけは統一をいっていることは明確であり、本当に統一をもとめるなら、多くの人々が反対する中央評議会を開催することはなかった。

統一を実現する道は、総選挙を実施し、大統領選挙を実施し、現在のアッバース体制を終わらせることでしかない。アッバース体制は、イスラエル、米国に支持されており、彼らが、アッバース体制がなくなることを望んでない。

民衆の抵抗闘争を強めていくしかない。

ハマス、中央協議会の決定についてコメント

投稿日 02/09/2022 (最終更新: 02/09/2022 時間: 23:28)

【ガザ=共同】ハマスの報道官ハゼム・カッセムは、パレスチナ中央評議会が第31回定例会合で発表した最終声明について、「いつものように最終声明が出され、決定は紙の上のインクのまま、地上で実行される道を見いだせない…」とコメントした。これは当初から確認していたことだと述べた。

そして、「このように中央評議会を招集することは正当性を欠き、わが国民の願望を絶対的に代表することも、希望を表明することもできず、その犠牲の大きさと気高





投稿：2022年02月03日 | 12:25

(PFLPのホームページより)

イスラエルの閣僚と自治政府の指導者が会議を行い、ファタハ運動の中央委員会のメンバーがダマスカスとベイルートを訪問した。その結果を見てみれば、誰もが、パレスチナ自治政府の現在の活動とラジュブ氏のダマスカス、ベイルート視察の成果が、2月6日に開催される中央評議会 で、シオニストとの交渉継続とアメリカの要求や条件に対応するために、自治政府の長がその方針を貫徹するために動いているという結論に到達する。この点に関して、われわれは次の事実を指摘する。

第一に アッバス議長は昨年12月29日、テルアビブの自宅にイスラエルのベニー・ガンツ国防相を訪ね、新たなインティファダの発生を防ぐ方法を検討し、抵抗の火種となる入植者の攻撃を緩和するよう依頼した。

会議では、パレスチナ自治政府の大統領は、パレスチナ税の33万ドルを獲得し、敵政府がパレスチナ自治区との“信頼醸成措置”のシリーズとして、他の特権に加えて、600追加のライセンスを付与し、パレスチナ人のビジネスマンはイスラエルに入ることを許可し、イスラエルの制御下にヨルダン川西岸のセクターに住んでいる6千パレスチナ人の地位を解決することを確認した

第二に、ファタハ中央委員会のフセイン・アルシェイク（民政大臣）が1月22日にヤイ・ラピド外相と会談し、パレスチナ側とイスラエル側の交渉を復活させることと、ラピドにパレスチナ自治政府のアッバス議長との会談を受け入れるよう求めることが議論の焦点となったことである。

第三：イスラエルによって受け入れられているパレスチナ自治政府の大臣フセイン・アル・シェイクを昇格させ、ファタハの中央委員会の承認を得ること、シェイクが組織の執行委員会のメンバーとその書記長であり、ファタのソースによると、彼は権威と組織の大統領職のアッバスの後継者であるために修飾し、マルワン Barghouti と副大統領のマームードアル・アロウル両方

- 大統領職取得の可能性の取り上げた。

第四：ジブリール・ラジュブ-ファタハ運動書記-が一月（1月）十日にダマスカスで行ったパレスチナ諸派との会合や、メディアでの発言で、選挙が統治とパレスチナ人のパートナーシップ構築への道であり、統一を達成するには中央評議会の招集を必要とすると強調した。ラジュブは、占領当局がエルサレムでの選挙を許可しないことを口実に選挙を実施できなかったのはPA指導部であるという事実を無視し、ハマスとイスラム聖戦の2つの主要な構成要素がない状態で中央評議会を開催するという事実も無視した。二大構成員がいない状態で中央評議会を開催しても、民族統合には全く寄与しない。

また、ラジュブ氏は、中央評議会が以前、イスラエルとの安全保障上の調整の停止やシオニスト主体（イスラエル）の承認の撤回を決定し、当局のトップがそれに従わなかったことから、覇権主義や排他主義のアプローチに照らして、中央評議会の決定が何の価値も持たないという事実も無視した。ラジュブ氏は「ハマス」に対して、見下すような態度で事態をエスカレートさせることを怠らず、こう言った。「ハマスの兄弟は、パートナーシップ構築の概念において、完全な成熟と立場の統一を持っていない」と述べ、民族統合政府の樹立には、交渉と国際カルテットに関するPLOの契約上の義務の承認が必要であることをほのめかすのである。国際的な正統性に関連する政治的な上限を設けて、ハマスに民族統合政府への参加を呼びかけることによって。

ラジュブが会談した党派、すなわち「人民戦線、人民戦線-総司令部、サイカ」は、当初、中央評議会の会議への参加を拒否し、最終的に参加を拒否して立場を決め、中央評議会是对話と統一達成に適した手段ではないと強調し、当初のアプローチは 現段階で、党派の書記長会議を開き、政治アプローチを変更し、大統領選挙と立法院選挙の実施と国民会議の選挙に主たる入り口があるとするものであった。

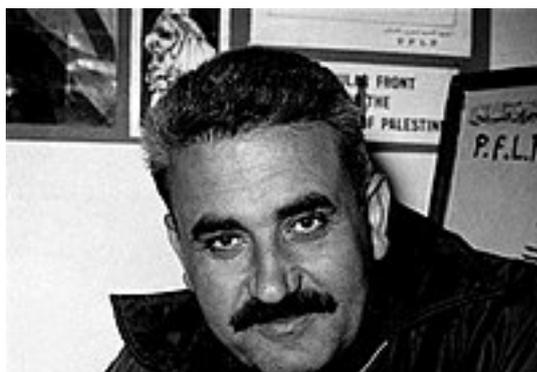
前述のデータは、組織の指導者の方向性の実態を明らかにし、この時期、この段階で中央評議会の会議を開催する権限を持ち、何が議題に上がったかにかかわらず、アッザーム・アル・アマドとワシル・アブ・ユセフによれば、アメリカと（イスラエル）の2つの関係について議論した。とともに、解放機構の機関の発展と活性化、入植地に立ち向かうための戦略策定、民族評議会の他のメンバー、執行委員会のメンバー、民族評議会議長とその代理、評議会の秘書の選出の問題で、辞任した者や死亡した者がいたためである。

多くのパレスチナ党派は、前述のデータに照らして、中央評議会の日程は形式的なものであり、エル・アユーンに灰を撒くための公然の試みに過ぎず、開催の主目的は、マームード・アッバス大統領がパレスチナ自治政府を復元するために党派に参加を求めるとだと認識している。エルサレムの剣の戦いの結果、その背中が露呈し、今回の選挙を行わないことでその虚偽の正当性が露呈した一方で、シオニスト団体やアメリカ政権と取引し、ワシントンから物質的支援を受け、占領軍との安全保障上の連携を活性化する代わりにワシントンのPLO事務所を再開するためであった。

この文脈で、人民戦線は、特定の国家的理由にしたがって評議会の会議をボイコットし、ボイコットに満足することなく、オスロ合意の取り消し、民主的基盤に基づく組織と制度の再建、事務局長制の採用を基本に、民族的統一を回復し、パレスチナ政治体制を再建するビジョンを示す文書を提出したことが注目される。あるいは、パレスチナ解放機構活性化・発展委員会は、わが民族の一時的な政治的基準となる指導者枠として、排他的状態を

終わらせ、民族問題の決定と占領との対立の管理において民族的パートナーシップを具体化し、新しい民族評議会が選ばれるまで1年間、合意による暫定的民族評議会を形成し、それに参加することだ。民族憲章と民族戦略に基づく完全比例代表制の原則に従った全勢力、および包括的民主選挙を中止する決定の解除、および国際カルテットの要求から解放された統一パレスチナ政府の形成。抵抗民衆の抵抗を管理する統一的な民族指導者の形成。この時点におけるパレスチナ民族闘争の形態を定義し、エルサレムのジャバル・サビ、ベイタ、ベイト・ダジャン、シェイク・ジャラー、シルワンで起こっているのと同様の、民衆の抵抗を強化する現地闘争プログラムを策定することも含まれる。

中央評議会のボイコットにおいて、人民戦線はこれまでの立場を確認し、パレスチナの舞台における分裂と分断状態を深め、国家機関における排他性と覇権のアプローチを強化するいかなるステップも拒否する、この（第一）である。（第二に）この会議を合意なしに開催することは、パレスチナの家を整理し、包括的な選挙を実施するというこれまでの民族的合意を踏みにじるものであり、分裂を終わらせ、統一を回復する努力への道をふさぎ、パレスチナ内部の危機と占領がパレスチナの土地、特にエルサレムと被占領地ヨルダン川西岸で。ユダヤ化・入植措置をエスカレートすることによって利用する既存の迷走状態を深化させる危険性を強調している。



アル・ハキム氏、中央評議会のボイコットを表明

投稿: 2022年1月26日 | 09:43 (PFLPのホームページより転載)

アラブ民族主義運動とパレスチナ解放人民戦線の創設者であり、「革命のハキム（賢者）」である国際的・民族的指導者、ジョージ・ハバシュ博士の思い出が私たちの上を通過していく。ハキムの14回忌と同時に、パレスチナ解放機構の中央評議会の開催が予定されている

が、このような問題についての賢人の立場や言葉を思い起こすことができる。政治的条件、オスロ合意の30年後に到達した断片化と衰退の状態、そして敵シオニストがパレスチナ内外での癌的拡大に用いた長年の内部分裂、他者への敵意を口実にしたあらゆる民族タブーの発射台を形成し、占領軍との友情を組織や権力、一部の政党や運動内部での政治的地位のより高い上昇へのパス

ポートとしたことである。

日が経つと、パレスチナ人の間では、失われ、無駄になった統一についての話以外はなく、政治家、政治家、作家、アナリストの支配的な関心は、民族統一のパズルを解読すること集中する、この統一はその形を失っており、我々はその内容をずっと前に失っている。アブ・アマルと組織の指導者の何人かが、それを銃の民主主義と呼ぶ統一とよんでいる、一方アル・ハキムは、それが贈り物として私たちに与えられることはないと考え、我々は永続性と決意の力によってそれを抽出しなければならないと考えていた、

政治的には、アル・ハキムは言う。「今起きていることは、単なる政治的なおかしみではない。むしろ、私たちは、アメリカの解決策に対処するための真の準備の前に立っている。しかし、適切な時期に、パレスチナのブルジョアジーがその分け前を保証する時期に、である。私たちは、ベイルートを離れた後に始まり、その根が70年代にまで遡る段階に直面しているのである。ブルジョアジーが武器を取った野心と夢に対する誠実さにもかかわらず、困難に直面し始め、分け前に落ち着くためにブルジョアの性質と調和するために、アラブと国際的な承認に引き寄せられたのである。

人民戦線とファタハ運動の論争については、「強い意見の相違があった問題の一つは、より多くの目標を達成したいのであれば、我々が強く影響力のある当事者である状況で交渉を行わなければならないと考えており、武装闘争の継続がこの強さを我々に可能にするということである。さらに、力の均衡は過去十年間我々の利益になっておらず、交渉が行き詰まった場合に武装闘争に頼ることができると考えていたファタのようにはいかない」と述べた。

組織面では、アル・ハキムは「いかなる政治的プログラムも、それがいかに強力で全会一致のものであっても、組織的プログラムを承認しなければ、君たちは望み、我々は望むことをするその実行は保証されない」と指摘している。政治プログラムは、統一と改革を本質とする組織プログラムから切り離すことはできず、矯正は解放機構の機関を通じて行われなければならない、その保証は、組織の指導機関の再検討にある。”と述べている。分裂が起こった後、アル＝ハキムは、我々は、既存の政治的現実の複雑さに立ち向かうために、すべての勢力を含む民族連合を形成するために、パレスチナの諸派を統一する

ために働く必要があると見た。PLOについては 何事も永遠に続くもの、神聖なものはないが、もし、この闘争の段階で、アメリカの計画の障害となるような最低限でも、その内部からの我々の闘いによって、それを維持し、そのプログラムに献身させることが可能ならば、我々はその内部から闘おう、アル＝ハキムは、我々が右翼的アプローチに直接立ち入る機会があったことを信じているのだ。1974年と1979年にその機会を逃したとはいえ、だから、これだけの犠牲を払ったパレスチナの人々に、彼らの革命が続き、彼の銃の行動と結果が続くという安心感を与えるような、真剣で根本的な修正のための他の機会を逃さないようにしたいものである。

パレスチナ民族評議会は、パレスチナ解放機構の最高政治機関であり、PLOの政策、計画、プログラムを定める権限を持つ機関である。しかし、オスロ合意、1996年にガザで開催されたアメリカ大統領出席のもと民族憲章の一部項目を取り消した会期、2018年に開催され人民戦線がボイコットした子供だましの会議、中央評議会のために哀れな人々が開催した会議は功利的な性格が強く、その決定は執行委員会や有力指導部に尊重されないためほぼ無力化されることになった。

そのため、交渉が行き詰まり、1998年にカイロで組織の中央評議会の会議が招集されたとき、アル・ハキムはその出席に反対し、ボイコットを呼びかけた。この政治路線に固執する組織指導部に照らして、対話が再び交渉に援用されると知っていたからだ。そしてワイリバーのテロ行為に対抗するためだ。

そして今日もまた、前と同じように



パレスチナ日誌

2022年1月

1月1日

- ・ガザのコロナ、6人死亡、57人の新たな感染者
- ・シェイク・ジャラのデモの弾圧とジャバル・ムカベルでの対峙
- ・昨年は、79人の子供と69人の情勢含む357人の住協者
- ・パレスチナのコロナ8人の死亡と136人の新たな感染者
- ・入植者たちは、ヘブロンで家に投石。
- ・カフル・カッダムの衝突で、市民たちが銃撃された。
- ・ジェニンの南での占領軍との衝突で、窒息者

1月2日

- ・キレナイカの占領軍との衝突で、88人の負傷者。
- ・占領軍は、シリワンの二人の青年を逮捕した。
- ・ラビド：我々は、イランの攻撃のために想像できない能力をもっている。
- ・占領軍の航空機は、ガザ回廊のいくつかの拠点を爆撃した。
- ・イスラエル人がベネットの家のまでデモ、国を破壊していると批判。
- ・ヒズマの近くで、入植者たちが投石で負傷。
- ・シェイク、661の家族の際会の許可を発表
- ・ガザの高等委員会前で、獄中者アブ・ハワシへの連帯のデモを行った。
- ・獄中者・元獄中者問題委員会：獄中アブ・ハワシは、医学的死亡と同じ状態。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、13人の新たな感染者
- ・占領軍は、ウム・アルファムでの獄中者アブ・ハワシを支持するデモを弾圧した。
- ・パレスチナのコロナ。2人死亡、137人の新たな感染者

1月3日

- ・占領当局のブルドーザーが、サルフィットの西の数十ドナムの土地を更地にした。
- ・100以上のNGOがガザ、西岸、エルサレムでの地方選挙を呼びかけた。
- ・シャケドは、クネセットに家族統合法の再提出を意図している。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、97人の新たな感染者
- ・西岸で逮捕キャンペーン
- ・ガザでジハードの獄中者アブ・ハワシを支持する大規模なデモが行われた。
- ・占領軍は、カルキリヤの2人の青年を逮捕
- ・占領諜報局は、釈放された獄中者をエルサレムから追放した。
- ・パレスチナのコロナ、3人死亡、295人の新たな感染者
- ・衝突、キレナイカで入植者が家々を攻撃。
- ・諸勢力は、ハマスにガザ回廊で選挙を認めるように呼びかけた。

1月4日

- ・ベイトウマルでの衝突で負傷者
- ・ファタハが獄中者アブ・ハワシに連帯する西岸での総動員を呼びかけた。
- ・エルサレム：占領当局は、医療センターを解体し、解体のためにアパートを占拠した
- ・ベイタで衝突、ブルカの近くで、入植者たちが車を攻撃
- ・ビディアのネルソンの土地に入植者の牛が大被害を与える
- ・人民戦線の指導者：我々は、西岸、ガザでの地方選挙を行うために民族対話呼びかける。
- ・占領軍は、エルサレムの家族を解体の止める決定がされたのに、追跡している。
- ・ラファ、獄中者アブ・ハワシを支援するスタンディングが行われた。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、103人の新たな感染者
- ・ラビド：私が首相になったときでも、パレスチナと交渉しない。
- ・ファワラの衝突で、実弾で青年が負傷した。
- ・数十人の空挺隊員が突然の訓練に参観するを拒否した。
- ・ナブルスで、ファタハが獄中者アブ・ハワシを支持するデモを行った。
- ・エルサレムで3軒の解体
- ・アブ・ハワシの勝利をジハードが祝福した。
- ・ハマス：アブ・ハワシの勝利は、パレスチナ民衆の強さを明らかにした。

1月5日

- ・イスラエル軍は、レバノン国境のドローン撃ち落としした。
- ・民主戦線：アブ・ハワシの勝利は、民族運動とパレスチナ民衆の勝利である。
- ・ファタハ：獄中者アブ・ハワシの勝利は、我が民衆の意思の現れである。
- ・占領軍は西岸で12人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・ティレー入植者たちが、サルフィットの西の数十のオリブの木を根こそぎにした。
- ・占領軍は、人民戦線の獄中にあるアハマド・サダト書記長の家を検索した。

- ・ガザのコロナ、3人死亡、88人の新たな感染者
- ・ヨルダン国王、イスラエル国防相のガンツと会談
- ・人民戦線、アハマド・サダト書記長の自宅への急襲を非難
- ・パレスチナのコロナ、10人死亡、332人の新たな感染者
- ・占領軍は、南部シリアのクネイトラの拠点に砲撃
- ・ベイト・ウマルの衝突で負傷者

1月6日

- ・占領当局は、エルサレムでの3557戸の入植地住宅の建設を承認した。
- ・ナブルスで占領軍によって青年が撃ち殺された。
- ・ラマラの西で、入植者によって隠された労働者が死亡
- ・西岸で、占領軍は、2人の青年を負傷させ、23人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・ガザで、パレスチナ人たちは、殉教者の日をデモで祝った。
- ・ベツレヘムで、大勢で、正教のクリスマスを祝った。
- ・パレスチナのコロナ、3人死亡、286人の新たな感染者
- ・ガザのコロナ、2人の死亡、83人の新たな感染者
- ・占領警察は、アルーアクサで2人の女性を逮捕した。
- ・入植者たちは、ビザリアの入り口にある車の修理屋を攻撃。
- ・占領軍は、ドラの南で、ブルドーザーを没収し、市民が土地を整備するのを妨害した。
- ・リッダで、青年が撃ち殺された。

1月7日

- ・ジェニンの南の衝突で、負傷者
- ・占領軍は、ベイタの3人の市民を逮捕した。
- ・入植者に投石が当たった後、テオカが急襲され、カメラが没収された。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で、5人が負傷した。
- ・ジャバル・サビでの対峙で、59人が負傷し、そのうち2人が頭に負傷した。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、4558人の新たな感染者。
- ・入植者たちは、テオカの中心で、デモをし、発砲した。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、66人の新たな感染者
- ・占領自治体は、カライン一家に自分でアパートを解体することを強制した。
- ・イスラエルは、ヒズボラーのドローンを落とした。
- ・ヘブロン南のクネイトラで入植者たちが、複数の市民を攻撃した。
- ・シャケド：電気法は、未承認のベドウィンの村には適用されない。
- ・占領軍は、ベドウィンの町から2人の青年を逮捕した。
- ・ベイト・ウマルで、占領軍との対峙で、窒息者
- ・ベイト・ウマルで、病気の少年を逮捕する前に、占領軍は攻撃した。

1月8日

- ・アッパースとシシがシャルム・エルシェイクで会談
- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、156人が新たな感染者
- ・ガザのコロナ、3人死亡、42人の新たな感染者
- ・イランは、ソレイマニの暗殺にかかわった51人の米国人に経済制裁
- ・アルーアロブキャンプでの衝突で、少年が負傷した。
- ・占領軍はジェニン—ナブルス道路を再開。
- ・占領軍は、ブルカの村を急襲し、その主要な入り口を閉じた。
- ・ラマラ：占領軍は、アボウドを急襲し、入植者たちは、デイル・ニドハムへの入り口をブロックした。
- ・ジェニンで、獄中者アブ・ハミドの支援と殉教者の遺体の返還を要求してスタンディング。

1月9日

- ・ガザのコロナ、4人死亡、13人の新たな感染者。
- ・ネゲブ刑務所で20人の獄中者がコロナに感染。
- ・占領軍は、ガザ回廊の中部、南部の三か所に発砲した。
- ・西岸で、オミクロン新たな感染者が49人で、291人まで感染者の数が増えた。
- ・ベツレヘムの西で、モスクと家々を含む8つの新たな通知がナハリンで出された。

1月10日

- ・少年の拘束に抗議して、アルーシューハーダ通りへの入り口で人々は座り込んだ。
- ・西岸での逮捕キャンペーン、ラマラ近くで、入植者たちが複数の車に投石した。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、98人の新たな感染者
- ・アルーイサウイヤーの町の土地をブルドーザーを向け、破壊した。
- ・占領軍は、釈放された獄中者が西岸に入るのを阻止した。
- ・ヘブロンで、病気の獄中者ナセル・アブ・ハミドに連帯する座り込みが行われた
- ・ウム・ツバー建設中の墓地が解体された。
- ・ガザでも、獄中者ナセル・アブ・ハミドに連帯するデモが行われた。
- ・ビルゼイト大学を占領軍が急襲し、学生の何人かを逮捕した。
- ・クネセット議員がシェクジャラを急襲し、民衆が彼らに対峙した。
- ・入植者たちが、エルサレムの女性を負傷させた。

1月11日

- ・ナブロスの南のアワルタに数百人の入植者が急襲した。
- ・西岸で185のオミクロンのケースが記録された。
- ・入植者たちが、東アルツパン交差点でデモを市、南部ナブルス道路をブロックした。
- ・イスラエル最高裁は、パレスチナ人家族の統合を止める決定をした。
- ・アルービレの北部の入り口で、衝突で12人が負傷した。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、95人の新たな感染者。
- ・ビルゼイト大学は占領軍の大学の襲撃に抗議し、誘拐された学生を釈放を要求した。
- ・占領軍は、ベツレヘムの西のペイトジャラ、パッチルで解体とブルドーザーをかけた。
- ・占領軍は、マルダの町の入り口を閉鎖し、市民の家を急襲した。
- ・ハルフル橋での近くで、占領軍の銃弾で、青年が負傷した。
- ・ラマラ、ジャリアリアの村で、占領軍によって虐待され老人が殉教した。
- ・シェイク：明日我々は、西岸でのパレスチナの身分証の所持者の千人の名前を公表する。
- ・オランダの代表部の前で、UAWCへの危機を止める決定に反対するスタンディングが行われた。
- ・トルカラムで、病気の獄中者ナセル・アブハミッドを支援するスタンディング

1月12日

- ・ガザで、占領軍感染が、弾幕で、漁船を包囲した。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、501人の新たな感染者
- ・「壁に対する抵抗」、Khirbet Ibbiqの5家族の立ち退きやテントの取り壊しを阻止する命令を引き出す。
- ・リビアは、ヨルダンで、イスラエル当局者と会議をもったことを否定
- ・占領軍は、釈放された獄中者マヘル・アルーカディを逮捕した。
- ・占領軍は、ジェニンの獄中者ムハammad・ジャラダトの家を解体する通知を行った。
- ・モサドは、イスラエル内で活動しているイランのスパイの細胞を取り除いた。

1月13日

- ・アラブ連盟は、国際社会に、パレスチナ人たちを守るように呼び掛けた。
- ・キレナイカとウィサリアでの占領軍との衝突で、窒息者。
- ・イスラエル軍とシンベトにネゲブでの抗議を止めるために、介入が要求されている。
- ・イスラエル警察は、5月のイベントで、逮捕された人々に補償することを決定した。
- ・サルフィットで、獄中者ナセル・アブハミッドに連帯するスタンディングが行われた。
- ・占領軍のブルドーザーがかけられ、ジャバル・サビに続く道路が閉鎖された。
- ・エルサレムでのバブ・アルアムドで少年を逮捕。
- ・占領軍は、シルオウンの町を襲撃し、子供を逮捕した。
- ・我々のモスクは「解体」されない、アルータクワモスクを防衛するためのオンラインキャンペーン。
- ・占領軍は、ネゲブの行進を強制的に解散させた。多数の負傷者がでた。

1月14日

- ・カフル・カッダムで行進の弾圧で、イスラエルの銃弾で4人が負傷した。
- ・ガザで、ネゲブの民衆の不動の立場を支持するデモが行われた。
- ・ガザのコロナ、死者なし、150人の新たな感染者。
- ・パレスチナで、222人のオミクロン株の感染者。
- ・カリフォルニア知事はパレスチナ人サーハン・サーハンの条件付き釈放を拒否
- ・エルサレムの旧市の二人の若者を占領軍は自宅軟禁にした。
- ・カルキリヤの衝突で、ゴム被弾で少年が負傷。
- ・駐イスラエル米国大使、どのような条件のもとでも入植地は訪問しない。
- ・占領大臣：我々はネゲブに植樹し、そこにユダヤ人を導入する。
- ・占領軍はハマスに所属するガザ市民を起訴した
- ・カフル・カッダムでの行進の弾圧で、イスラエルの銃弾で4人が負傷した。
- ・ネゲブの民衆の不屈さを支持するガザでのデモ

1月15日

- ・占領当局は、アルアクサの新しい警備員の指名に介入し、妨害を行っている。
- ・パレスチナのコロナ、8人死亡、332人の新たな感染者
- ・ガザの部族、氏族はネゲブとの連帯のスタンディングを行った。
- ・UAEは、イスラエルのテクノロジー部門に1億ドルの投資をする。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、80人の新たな感染者

1月16日

- ・占領軍は、3人のエルサレム人を逮捕した。
- ・占領当局は、ワディガザ・ダムを開けたそして、近隣の家に沈没すると警告した。
- ・ベールシバで、ネゲブでの被拘束者の釈放を求めて、デモが行われた。
- ・ガザのコロナ、死者なし、39人の新たな感染者
- ・入植者たちは、ナブルスのパラカを攻撃した。
- ・パレスチナのコロナ、3人死亡、642人の新たな感染者。

1月17日

- ・シェイク・スレイマン・アルーハスリンの殉教
- ・殉教者アルーハスリンの家族は、私たちは、彼を殺したイスラエル警察に対して裁判をもとめる。
- ・UAE：3隻のタンカーがアブダビで、ドローンで攻撃された。
- ・ガザのコロナ、死者なし、143人の新たな感染者
- ・ペイト・ラヒアの西で、占領軍は漁師を標的にした。
- ・シェイク・ジャラで家族が追放に反対して、家主が、自らに火をつけると脅す。
- ・西岸で、占領軍は、逮捕キャンペーンを開始
- ・シェイク・ジャラのサルヒア一家は彼ら自身を家に縛り付け、占領当局の決定を拒否
- ・ガザ、赤十字の前で、獄中者アブハミッドの支援のスタンディング
- ・エツイオン入植地の十字路で、占領軍によって銃撃され殉教者に。
- ・パレスチナのコロナ、8人死亡、823人が新たな感染者。
- ・ガザのコロナ、死者なし、177人の新たな感染者
- ・ヤツァでストライキ、西岸での逮捕キャンペーン
- ・占領軍は、マルダの町を封鎖した。
- ・殉教者アルーハスリンの葬儀とあわせて、ヤツァで全面的なストが明日行われる。
- ・ナブルス—ジェニン道路の閉鎖とキレナイカの衝突で20人が負傷した。
- ・地方選挙は、ガザでは延期、西岸では予定通りに。

1月18日

- ・サリヒア一家は家から退避するのに失敗し、その周辺が完全に破壊された。
- ・サルフィットの西で、5ドナムの土地からの退去命令
- ・イスラエル警察は、ネゲブでの逮捕キャンペーンを続けている。

1月19日

- ・占領自治体は、3つシリワンの商業施設の解体を青年に強制した。
- ・ペイタでの占領軍との衝突で負傷者。
- ・占領軍は、ペイト・ウマールを急襲し、2人の青年を逮捕した。
- ・占領軍は、西岸とエルサレムで逮捕キャンペーンを開始した。
- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、1259人の新たな感染者
- ・エルサレムのワクフの副所長が逮捕された。アルアクサへの侵攻と逮捕
- ・ネゲブで、民衆の抗議はつづく。
- ・ガザのコロナ、3人死亡、255人の新たな感染者
- ・占領軍は、ペイト・ウマールを急襲し、2人の青年を逮捕した。
- ・追放を条件に、占領軍は、教師ハラワニを釈放した。
- ・アラブフォローアップ委員会は、土曜日に緊急会議を呼びかけ、ネゲブでの民衆運動の再開のため。
- ・北部ガザ地区は、占領下のネゲブの民衆との連帯のスタンディングを組織した。

1月20日

- ・西岸での逮捕
- ・国連は、イスラエルにエルサレムのパレスチナ人の追放をやめるように呼び掛けた。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、1240人の新たな感染者。
- ・EUは、占領権力に、入植地と家屋の解体をやめるように呼び掛けた。
- ・追放と罰金、占領当局は、サリヒア一家被拘束者の釈放を決定した。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、294人の新たな感染者
- ・占領当局はダムを開けた。ガザの700ドナムの農地が水没すると警告された。
- ・イスラエルの検察は、17人のネゲブの青年を起訴した。
- ・占領軍は、ベツレヘムの南で、青年を逮捕した。
- ・ネゲブでの逮捕と土地にブルドーザーをかけたことへの抗議
- ・UNICEFは、イスラエルに、無条件で、病気の子供を釈放することを呼びかけた。
- ・占領当局は、二人の獄中者の家の取り壊しを通知した。

1月21日

- ・占領軍は、カフル・カッダムで、2人の青年に銃撃し、主要な水道を破壊
- ・イスラエル：警察のペガサスパイアアプリケーションの使用検証委員会を形成
- ・たくさんの人々が、ネゲブとシェイクジャラのサリヒア一家の支援のためのアルアクサで偉大な夜明けの呼びかけに応えた。
- ・イスラエルは、二人の獄中者、ガイ、オマル・ジャラダトの家族の家の取り壊しを決定した。

オリーブの会通信 第16号(通巻22号)

- ・法務省：エルサレムの人々の追放を非難し、より強い国際的な立場をとることを呼びかけた。
 - ・カフル・カッダムの弾圧で、青年たちが6発の占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
 - ・ガザのコロナ、2人死亡、356人の新たな感染者
 - ・ハンナ司教、エルサレムの性格を変えようとする計画は成功しない。
 - ・入植者たちは、シェイク・ジャラ近隣の土地を占拠した。
 - ・ナブルスの西で、入植者たちは、300本のオリーブの木を根こそぎにした。
 - ・ナブルスの南で、入植者たちの攻撃で、8人の活動家が負傷し、車に放火した。
 - ・党派調整委員会は、大統領に、ペイタの被拘束者を介し、釈放することを呼びかけた。
 - ・ヘブロンで、占領軍は、子供を逮捕した。
 - ・サルフィットの西で、武装した入植者たちが、市民を攻撃
 - ・ペイタとペイト・ダジャンで占領軍との衝突で、127人が負傷した。
 - ・サルフィット県のビドヤとヤスフで入植者たちが、90本のオリーブの木を根こそぎにした。
 - ・シェイクジャラでの座りこみと。サレム一家の土地に張られたワイヤーを取り除くことを続けている。殴打と逮捕が行われた。
 - ・新聞が暴露カエサリアの海岸にパレスチナ人の大量の埋葬地の存在を明らかに
- 1月22日**
- ・シングルスの近くで占領軍に青年が撃たれる。
 - ・ガザのコロナ、一人死亡、178人の新たな感染者
 - ・48年領内の活動家は、ネゲブの民衆の支援のために、民衆闘争をエスカレートさせることを決めた。
 - ・占領軍がキレナイカの町を急襲し、衝突が起こった。
 - ・カフル・カッダムでの占領軍とその衝突で、負傷者。
 - ・パレスチナは、国際委員会に、シオニストギャングによる虐殺の調査をすることを呼びかけた。
 - ・パレスチナのコロナ、2人の死亡、928人の新たな感染者
 - ・占領軍は、エルサレムの北西の村の入り口に軍事検問所を設置した。
 - ・エルサレム北部のカフル・アカブへ、占領軍の襲撃
- 1月23日**
- ・入植者たちは、ラマラの東のブルカの村を急襲
 - ・入植者たちは、ヨルダン渓谷で、市民の穀物を破壊するために牛を送り込んだ。
 - ・占領軍は、ネグビヒト入植地の周辺の土地を破壊した。
 - ・ラマラの北西のナビサレの村の入り口に軍事検問所
 - ・ガザのコロナ、2人死亡、407人の新たな感染者
 - ・占領軍は、トルカラムで、4人の市民を逮捕した。
 - ・アルフィットの北で、入植者たちは、タイヤを破壊し、人種主義的なスローガンを書いた。
 - ・アルーザウィヤでゴミ収集車を没収し、その運転手を逮捕し、カフル・アルディクの土地から退去するように通知。
 - ・ガザの病院に医療器材の搬入禁止への抗議行動
 - ・裁判所、家を取り壊された後で、サリヒヤ一家の件について、判決の必要はない。
- 1月24日**
- ・占領軍は、西岸で、何人もの市民を逮捕した。
 - ・UAEは、フーティから発射された弾道ミサイルを迎撃し破壊した。
 - ・パレスチナのコロナ、5人死亡、3620人の新たな感染者
 - ・占領当局は、ルギブの家々に通知をした。
 - ・ハマスとジハードは、フセイン・アルシェイクとイスラエル外相との会談を非難した。
 - ・ガザのコロナ、死者なし、990人の新たな感染者
- 1月25日**
- ・占領当局は、元獄中者、その父親、兄弟をシリワンで逮捕した。
 - ・カランディア難民キャンプへの襲撃での負傷から市民が儒教した。
 - ・アルーツルの2つのアパートに押し入り、取り壊しのために、住民を追い出した。
 - ・ガザのコロナ、4人死亡、894人の新たな感染者
 - ・イスラエルのブルドゥーザーは、197回目のアルーアラキブ取り壊しを行った。
 - ・西岸での逮捕キャンペーン
 - ・アルーハゼール一家は、ネゲブでの座り込みテントを撤去するように通知を受けた。
 - ・攻撃と逮捕中で、占領当局は、アルーツルの二つのアパートを取り壊した。
 - ・エルサレムの将来をかえる入植地計画は明らかにされた。
- 1月26日**
- ・ヘブロンで入植者たちが市民を攻撃したとき青年が傷だけになった、

- ・キレナイカの入り口での衝突で、窒息者
 - ・ナブルスで、軍事監視塔に銃撃
 - ・人民戦線の指導者バドラン・ジャベル死去
 - ・ガザのコロナ感染者急増、1250人の新たな感染者
 - ・占領軍は、西岸の8人の市民を逮捕した。
 - ・パレスチナのコロナは飛躍的に増えた。2人の死亡と7750人の新たな感染者
 - ・サルフィットの西の土地で新たな入植者の攻撃
 - ・占領軍で、16000人のコロナが記録された
- 1月27日**
- ・占領警察は、占領下エルサレムから14人の青年を逮捕した。
 - ・逮捕と負傷、占領軍は、エルサレム人が雪で喜ぶのをスポイルした。
 - ・パレスチナのコロナ、二人死亡、4548人の新たな感染者
 - ・ヘブロンで、入植者たちは、占領軍の兵士の防衛の元、青年たちを攻撃した。
 - ・占領軍は、イサウィヤの青年たちを爆弾と逮捕で弾圧した。
 - ・占領軍は、アルアクサ広場で、青年を逮捕
 - ・ガザのコロナ、死者なし、1398人の新たな感染者
 - ・ベネット：アブマーゼンとは会わない、パレスチナ国家の建設に反対
 - ・占領警察は、占領下エルサレムで、54人の市民を逮捕
 - ・占領警察は、MKアイマン・オデーを尋問
 - ・デル・ジャリールで、市民が占領軍に撃たれる。
- 1月28日**
- ・ガザのコロナ、3人死亡、803人の新たな感染者
 - ・ガザの周辺のイスラエル当局者の家を標的とした爆弾攻撃
 - ・カフル・カッダムで、子供とジャーナリストを含む、4人がイスラエルの銃弾で負傷。
 - ・フォローアップ委員会は、ネゲブを支持するエルサレムでの日曜日のデモの最大の参加者を呼びかけた。
 - ・シェイク・ジャラでのデモ。占領軍は青年を逮捕した。
 - ・ペイトダジャンとジャバルサビでの衝突で50人が負傷した。
- 1月29日**
- ・ガザのコロナ、535人の新たな感染者
 - ・殉教者の母親と獄中者、占領軍は、故人を運ぶ霊柩車がアルアクサに入ることを阻止した。
 - ・ガザの東の帰還キャンプでネゲブの人々連帯するデモが行われた。
 - ・パレスチナのコロナ6人死亡、5687人の新たな感染者
 - ・EUは、被拘束者アルーハラビの釈放を呼びかけた。
- 1月30日**
- ・エルサレムでの逮捕キャンペーン
 - ・シンベトは、ネゲブのデモを家族の再統合を阻止するために利用している。
 - ・民族イニシアチブは、自治政府に、イスラエル側との会談をやめるように呼び掛けた。
 - ・イスラエル大統領が、UAEに到着した。
 - ・抵抗委員会、首長国で占領国家の大統領を受け入れることは、我が民衆の背にナイフを突き立てるものである。
 - ・占領軍は、ハーン・アハマルのネゲブと連帯するスタンディングを弾圧した。
 - ・ヨルダン渓谷で、占領軍は、家を取り壊し、市民を逮捕し、車を没収した。
 - ・人民戦線は、中評議会へのボイコットを発表した。
 - ・ガザのコロナ、7人死亡、1345人の新たな感染者
 - ・占領軍は、イサウィヤで、青年を襲ったあと、逮捕した。
- 1月31日
- ・UAEへのイスラエル大統領の訪問に合わせ、UAE国防相は、弾道弾の発射を検知した発表。
 - ・レバノンは、最大のイスラエルのスパイネットワークを摘発したと発表
 - ・シリアの防空体制は、だます近辺を標的としたイスラエルのミサイル攻撃に反撃した。
 - ・西岸での逮捕キャンペーン
 - ・ネゲブのアラブ高等委員会は：名誉と尊厳をもって生きる権利は妥協できない
 - ・占領自治体は、エルサレムの2家族に自宅の取り壊しを強制した。
 - ・先月は、エルサレムの15件の家と施設を取り壊した。
 - ・パレスチナのコロナ、6人死亡、10444人の新たな感染者
 - ・ガザのコロナ、3人死亡、2369人の新たな感染者。
 - ・諸党派、民族的な合意のない中央評議会の開催は、分裂を強めることに。

パレスチナ人に愛されている歌

私の血はパレスチナ人

モハメッド・アシフ

誓いを守り、宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は同胞のものであり、彼らのために私の魂を犠
牲にする
私の血はパレスティナ人、パレスティナ人、パレス
ティナ人
私の血はパレスチナのもの

私たちはあなたのために立っていた、私たちの祖
国
私たちの誇りとアラビズムで
アルクッズの地が我々を呼んだ
(As) 私を呼ぶ母の声
パレスチナ人 パレスチナ人
私の血はパレスチナ人

私の誓いを守り、私の宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は同胞のものであり、彼らのために私の魂を捧
げます。
私の血はパレスティナ、パレスティナ、パレスティ
ナ
私の血はパレスチナのもの

母よ、心配しないで
あなたの祖国は城郭である
私の魂を捧げるもの
そして私の血、私の静脈

私の誓いを守り、私の宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は私の民族に属し、彼らのために私の魂を捧げ
ます。
私の血はパレスティナ人 パレスティナ人 パレス
ティナ人
私の血はパレスチナのもの

私はパレスチナ人だ 自由な家庭の息子だ
私は勇敢で、いつも頭を上げている。
私は祖国への誓いを守っています。
そして、私は誰にも屈したことがない
パレスティナ人 パレスティナ人
私の血はパレスチナのもの

私の誓いを守り、私の宗教に従う
あなたは私の土地で私を見つけるでしょう
私は同胞のものであり、彼らのために私の魂を捧
げます。
私の血はパレスティナ、パレスティナ、パレスティ
ナ
私の血はパレスチナのもの

YOUTUBEで My blood is Palestine で検索すれば聞くことができます。



楽園への帰還の権利

もし神がアダムを永遠の命から時間へと追い出して罰したのであれば、地球は亡国となり、歴史は悲劇となります。カインとアベルの家族喧嘩に始まり、市民戦争、地域戦争、世界戦争へと発展し、歴史の子孫が歴史を一掃するまで続いているのです。では、次はどのようなのか?歴史の次には何が来るのか?楽園への帰還の権利は、無と神の神秘に包まれているようだ。唯一の平坦な道は奈落への道であり、追って通知があるまで... 神の恩赦があるまでである。

モハムド・ダルウイシュ

おいしいパレスチナ カфта・ケバブ

投稿日公開。2020年8月7日 - 最終更新日 2021年11月13日

焼いた牛肉のカフト・ケバブの味に勝るものはない。赤身のひき肉で作るこの簡単なレシピは、ほんの少しの基本的な材料で作れ、夏の人気メニューです。

夏の季節になると、カフトのグリルはよく私のメニューになります。シンプルで簡単に作れるだけでなく、牛肉、玉ねぎ、スパイス、フレッシュパセリの風味が相まって素晴らしいからです。バーベキューの上でケバブが焼ける匂いを嗅ぐと、最初の一口を期待して唾液が出ることでしょ。

作り方

カフト・ケバブは中近東で親しまれているケバブです。ラム肉や牛肉で作ることが多いですが、七面鳥や鶏のひき肉でも作れます。基本的な材料があれば、風味豊かなおいしい料理ができるレシピのひとつです。

ここでは、自家製カフトの材料と作り方の概要を説明します。必要な分量は、記事の最後にあるレシピカードをご覧ください。

材料の概要

- 牛肉のひき肉。赤身の牛肉が望ましい。しっとりジューシーなケバブを作るには、肉にある程度の脂肪が必要です。赤身の多い牛肉は、ケバブが乾燥してしまい、おいしくありません。
- 黄色い玉ねぎ 中1個
- フレッシュパセリ (フラットリーフまたはカールパセリ)



- 塩、コショウ、カイエンヌ、7種類のスパイス。セブンスパイスは、中近東の料理でよく使われる風味豊かなスパイスのブレンドである。中近東の食材店では、あらかじめブレンドされたスパイスが販売されています。

ステップの概要

木製の串を使う場合は、火がついて焦げないように30分ほど水に浸しておく必要があります。

ケバブを作るために、タマネギの皮をむき、4等分する。パセリはよく洗い、水気を拭き取ります。

フードプロセッサーのボウルに4等分した玉ねぎとパセリを入れ、みじん切りにする。

大きなボウルにひき肉、スパイス、みじん切りにしたパセリと玉ねぎの混合物を加える。材料をしっかりと混ぜる。私は手を使って、すべてをよく混ぜ合わせるのが好きです。

ケバブを作るには、混ぜ合わせたものを手で取り、串の周りに型どります。串の周りの肉は1インチから1.5インチの厚さになるようにする。カフトミックスを使い切るまで繰り返す。

串を使わない場合は、カフトを1センチくらいの厚さのパテに成形する。丸いパテにして、カフトバーガーとして食べてもいいし、伝統的な楕円形のパテにしてもいい。

守ろう！オリーブの木を カンパのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

土地を守ることは抵抗闘争である。パレスチナの農民の土地を守る闘い、生活を守る闘いを支援します。集まった基金は、パレスチナ農業労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)
預金種目：当座
口座番号0303500



2月12日、大阪、御堂筋のプーマ店舗の前で BDS 関西の抗議行動



2月13日米国、ニューヨークでの抗議行動



2月13日アイルランドでの抗議行動



英国の連帯キャンペーンの抗議行動

今号の内容

イスラエルはアパルトヘイト国家である・・・・・・・・・・・・・1

第31回中央評議会の開催をめぐるって・5

開催は。オスロ壕合意のアプローチの完成をめざすもの・・・・・・・・・・・・・7

ハキム、中央評議会のボイコットを表明 8

パレスチナ日誌・・・・・・・・・・・・・10

パレスチナの愛した歌・13

パレスチナの詩・・・・・・・・・・・・・。・14

おいしいパレスチナ・・・・・・・・・・・・・15

ピック・・・・・・・・・・・・・16



2月13日、フランス、パリでの攻撃行動



大阪、御堂筋 プーマ店舗前の抗議行動。

2月12日、13日にプーマボイコットの国際行動が行われた